

# かわさき GIGA スクール構想

未来社会の創り手を育む かわさきの新しい教育

かわさき GIGA スクール構想では、インターネットに**つながる**中で、個別学習でも協働学習でも一斉学習でも、クラウドによって学びを蓄積したり、双方向の学びを可能にしたりすることによって、かわさき教育プランの基本目標である「**自主・自立**」「**共生・協働**」を推進します。既習と**つながる**、他教科と**つながる**、他者と**つながる**…「**つながる**」をキーワードに、「情報活用能力」を基盤として、ステップ1、ステップ2、ステップ3と段階的に学びを変容させていきます。1人1台分の端末を通して様々な人・もの・ことと**つながる**中で、未来社会の創り手となる子どもたちに必要な力が育まれていきます。

使用する端末は、使いやすさに合わせて、小・中学校（特別支援学級を含む）が Chromebook、特別支援学校が iPad です。どちらもクラウドサービスである G Suite for Education を活用します。

### G Suite For Education

つながる機能がいっぱい

クラスルーム   ドライブ   ミート   ドキュメント   フォーム

他にもインターネット検索、カメラや QR コード読み取り等、様々な機能で子どもの学びをサポート。起動がとても速く、スムーズに学習ができる。

### 教育プラットフォームに導入するコンテンツ

様々なコンテンツがシングルサインオン  
1つのIDとパスワードで様々なコンテンツが利用可能

**【授業支援コンテンツ】**  
児童生徒が画面を共有して協働学習が可能  
教材配付・回収が簡単に行える。

**【新学習指導要領に対応のドリルコンテンツ】**  
毎日の「繰り返し学習」や「家庭学習」を自分のペースで学習ができる。  
自動採点機能があり、先生の負担が減る。

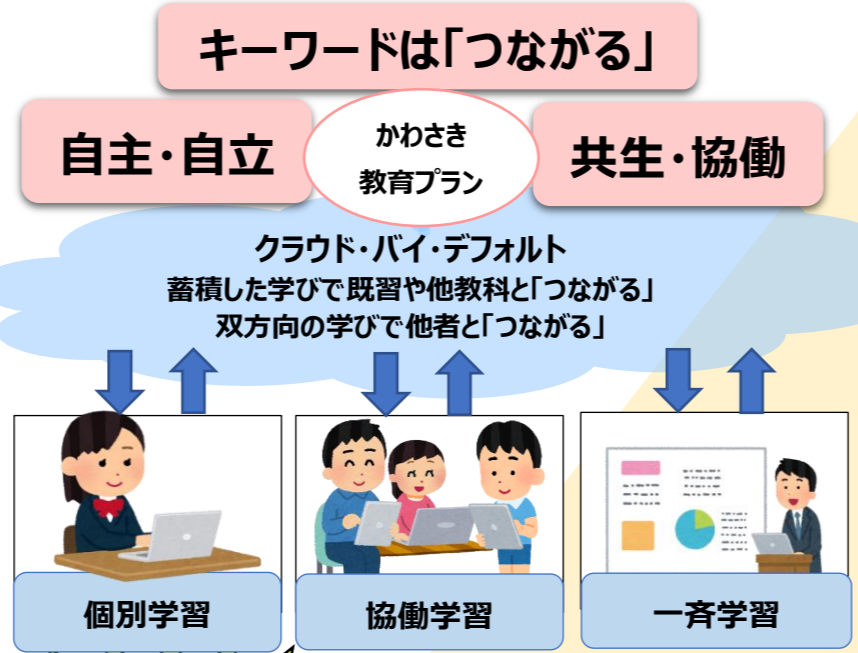
### こんなことはありませんか…GIGAで解決できるかも

① 大量のノートのチェックや、ドリルの採点…とにかく時間がかる…。

② 発言する子の考えしか見取れない。他の子たちの考えは…。

③ 前回使ったプリントを忘れてしまって授業に参加できない子がいる…。

①②③はどのように解決されるのか…。リーフレットから探し出してみてください。



校務や研修にも活用でき  
働き方改革にも**つながる**

ノートを集めなくても教師用端末で子どもたちの学びをいつでも確認できる。クラウドに保存したデータを教職員間で共有したり、自動採点機能を活用したりして、校務の効率化を図る。オンラインで研修もできる。

小・中学校の  
1人1台分の  
端末は  
**Chromebook**

### ステップ2 既習や他者とつながることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する

**主** クラウドに蓄積した自らの学習状況を振り返り、見直しをもったり、次の学習につなげたりする。

**対** クラウドを通して、子ども同士の対話が活性化し、教職員や地域の人、先哲との対話が容易になり、自らの考えを広げ深める。

**深** クラウドに蓄積した学びをもとに知識を相互に関係付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりする。

即時的に見取り、**形成的評価**ができる

モニタリング機能により一人一人の考えを即時に見取り、形成的評価ができる。また、クラウド上で教科、単元、日付ごとに整理された子どもの学びや評価したことを振り返って、総括的評価や授業改善に役立てられる。

例えば…

- 外国語** 発表の様子を録音し、再生して確認することで、自分の発話を客観的に振り返り次の学習における見通しや目標設定をする。
- 美術** 制作の過程で作品を共有し、感じたことや考えたことを伝え合い、考えを深め、さらに自分の作品をよりよきように試行錯誤する。
- 理科** 観察、実験を動画等で記録することで、繰り返し拡大したりしながら、現象を科学的に分析し、既習や他者の記録や考えと比較して、考察を深める。

詳しくは「教育の情報化に関する手引き」令和元年12月文部科学省

### ステップ1 インターネットにつながることで、「いつでも」「どの教科でも」使えることを実感する

- 検索サイトを活用した調べ学習ができる
- 文章やプレゼンテーションの作成ができる
- 一斉学習の場面でも双方向の学びができる
- 自分のペースに応じた個別学習ができる
- いつでもどこでも学ぶことができる

Googleの検索サイトでインターネット検索し、新聞記事や動画等を集集・整理する。情報はクラウドに保存し、いつでも必要なとき取り出せる。

ドキュメントで自分自身の考えをまとめたり、スライドでプレゼンテーションを作成したりする。共同編集し、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う。

イメージがもちやすくなるようデジタル教材を提示する。（大型テレビだけでなく個々の端末にも提示）授業支援コンテンツで一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向に授業を進める。

ドリルコンテンツを活用し個別学習をする。即時に採点されるので、自分のペースで学習でき、先生は進捗状況を確認することができる。多様な子どもたちに対してよりきめ細やかな対応を行う。

臨時休業中のオンライン指導によって学習保障や子どもたち一人一人の健康状態の把握、心のケアを行う。

学習の基盤となる情報活用能力

ICT環境は変わっても、「主体的・対話的で深い学び」や個に応じたきめ細やかな指導など、**これまでの教育実践で大切にしてきたことは何ら変わらない**ことがわかりました。ICTをベストミックスさせることで、さらに**授業改善**を図ることができ、**新しい教育が創造**できます。業務も効率化できて、教材研究の時間も増えそうです。子どもたちと一緒に「かわさき GIGA スクール構想」を実現できるのが楽しみです！

